

- 2 **特集** 田村市経済を耕す
エコノミックガーデニング
- 6 **特集** 入園入学おめでとう
- 7 **特集** 春爛漫 美桜や自然を
楽しむ 田村市さくらウオーク
- 8 **特集** 第10期
田村市観光キャンペーンクルー
- 9 危険業務従事者叙勲
努力と功績に光
- 10 たむらほっとニュース
- 28 各施設の催し
- 30 ほけんだより

市の募集・申請に関する 各記事の共通事項

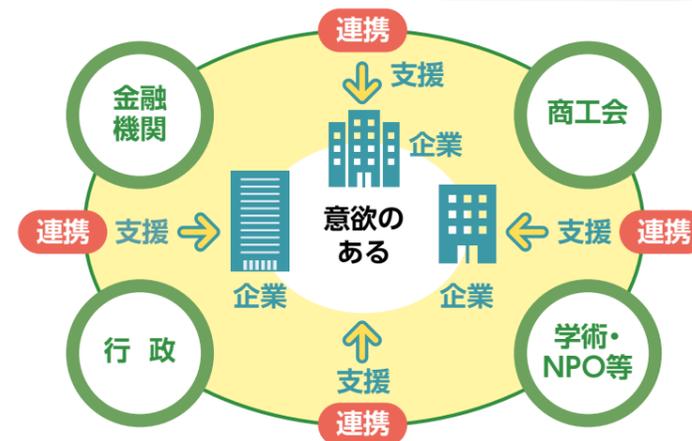
問 問い合わせ 申 申し込み先
市への申込・書類提出について明記してい
ないものは、期間中の土・日・祝日を除く
午前8時30分から午後5時15分まで

田村市経済を耕す

エコノミックガーデニング



市が取り組みを進めているエコノミックガーデニング事業。経済
施策検討に際し、田村市内の経済構造と事業者に関する情報を取り
まとめ、市内事業者のニーズを確認した上で、「市が行えること・
経済団体が行えること、金融機関が行えること」を検討し、実行し
ていくことで市内事業者の成長を促すものです。
情報の取りまとめについては、国の統計データを利用して事業者
情報を確認し、令和4年度中にアンケート調査を実施するなどの手
法を取り、市内事業者の特徴やニーズを整理しました。
昨年5月には経済団体、金融機関、学識経験者等を構成員とする
「エコノミックガーデニング田村本会議」を立ち上げ、本会議の下
に「エコノミックガーデニング田村実務者会合」を設置しました。
本会議では実務者会合で検討された事項を取りまとめ、昨年11月
に提案書という形で、市に意見の提出を行いました。



エコノミックガーデニング田村 推進体制イメージ図



エコノミックガーデニング田村本会議委員集合写真

これまでの歩みと分析結果

4年 10月	エコノミックガーデニング準備会発足
11月	田村市事業者実態把握調査実施
5年 4月	田村市事業者実態把握調査結果の分析開始
5月	田村市地域調査(産業連関表作成) 開始、 エコノミックガーデニング田村本会議設置
6月	エコノミックガーデニング田村実務者会合の選任
6月～10月	分析・調査の中間報告に基づく施策の検討
11月	エコノミックガーデニング田村本会議開催(市へ施策提案)
12月～	実施施策の内容検討
6年 3月	分析・調査結果報告(シンポジウムの開催)

エコノミックガーデニングシンポジウム 【第1部】 報告会

3月25日、市文化センターで「田村
市エコノミックガーデニングシンポジ
ウム」を開催しました。

第1部では、田村市の中小企業支援
を考えるために行った二つの調査から
の報告がありました。まず、立教大学
の菊地名誉教授と櫻本准教授から
「田村市事業者実態把握調査」の結果
が報告されました。引き続き、一般財
団法人とうほう地域総合研究所の木村
正昭研究員が「田村市地域調査(産業連
関表)」を報告しました。

菊地名誉教授



求められる 変化への対抗力

原材料や仕入れ単価の上昇をはじめ、円安進行など経営環境が大きく変化しており、企業には変化への対抗力が求められています。市内の事業所を対象に行った調査では、市に今後期待する施策として、「雇用に対する支援」がトップでした。市全体の経済が発展するためには、若手経営者の育成や基幹産業である農林業の強化が大切です。事業所は、自社を見つめ現状を冷静に分析する力や、経営者同士が切磋琢磨(せつさたくま)し、ともに学び合うことが必要でしょう。

積極的な 販路拡大を

広域で活動する製造業、建設業を除くと、販売・仕入れ先の多くが市内になっており、事業者が狭い地域内だけを対象にしている状況です。将来の人口減少を見据えると、郡山市や他地域への積極的な販路拡大がポイントでしょう。地域別インターネットサービスの利用状況を見ると、船引と他の地域で多少差があります。インターネットサービスの利用の前に販路を拡大し、事業規模を大きくしてからインターネットサービスを拡大していくことが、成長路線になるでしょう。

木村研究員



潜在能力高い 観光地あぶくま洞

あぶくま洞・入水鍾乳洞の観光客入込数は、震災前の2010年は約38万人、2022年は約17万人と、約20万人減少しましたが、あぶくま洞・入水鍾乳洞が約38万人の観光客が訪れるポテンシャルがある観光地であることが示されています。観光客入込数が20万人増加した場合、市内への経済波及効果は約8億5千万円となります。最も波及効果が高かった産業は飲食店や旅館などの「対個人サービス」で、直接関連がないと思うような産業にも波及するように効果が広がると考えられます。

櫻本准教授

